

かんげんじょうせいかい か  
管絃丈清会歌

石橋 令 邑 作詞  
加羅古呂庵 一泉 作曲

2024. 8.12 作曲

歌(男声)

尺八I

尺八II

箏I

箏II

十七絃

1尺8寸管

口 ピ

1尺8寸管

口 ピ

花雲調子

三 二 一 三 五 七 九 斗 為 巾

花雲調子

三 二 一 三 五 七 九 斗 為 巾

二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。

## 管絃丈清会歌

「尺八丈清会歌」(1995年)は、歌に尺八3パートで伴奏する形式でしたが、鯉江丈山師のご依頼により、箏・十七絃を加え、尺八は2パートにして、「管絃丈清会歌」としました。作詞は、「高麗の春」などの詩を作られた石橋令邑氏です。

あおによし 奈良の都に 渡りきし  
 もろこしの 笛 代ををへては  
 善化尺八と 時をすぎ  
 古今にわたる 日本の竹韻  
 都山・茶山の 伝統の  
 芸風うけし 丈山は  
 竹道の標 かえりみて  
 楽の基は 本曲と  
 古曲・新曲・現代曲  
 糸竹の道 きわめあい  
 指南の灯 消ゆることなく  
 会員の 結び和をもて いやかたく  
 求道の波路 洋洋と  
 丈清会の 邦楽ぞ  
 国の内外に ひびきわたらん  
 時をかぎらで ひびきわたらん

©1991 石橋令邑

(注) 縦譜(箏・十七絃譜)では、歌を箏(花雲調子)で記しています。縦譜では、他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。正確には、五線譜(スコア)をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ



13				9				
一	九十	四	ハ	九	九	mf七	ハ	九
二	△九	五	ハ	△	十	ハ	ハ	十
四	八	>	ハ	九	△	ハ	ハ	ハ
六	八九	六七	ハ	△	五	三	ハ	ハ
○	升	八	ハ	△	一	一	ハ	△
○	升十	八七	ハ	△	三	>	ハ	△
○	九	七七	ハ	△	四	五	ハ	△
○	八	五	ハ	△	>	>	ハ	△
2	七八	二	ハ	△	十	八	ハ	△
3	>	三	ハ	△	>	七	ハ	△
>	八	三	ハ	△	十	△	ハ	△
九	八	五六	ハ	△	>	>	ハ	△
一五	七八	七	ハ	△	六	八	ハ	△
○	>	八九	ハ	△	>	五	ハ	△
二	五	八	ハ	△	二	八	ハ	△
四	六	>	ハ	△	六	>	ハ	△

管絃丈清会歌 (2)

5				十七絃 箏 II 箏				尺八 歌 (男声)					
二	九	四	八	二	十	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
○	六	五	○	八	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
八	四	五	九	七	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
五	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二	一	五	ハ	△	二	八	ハ	△	三	八	ハ	△	三
六	三	八	ハ	△	六	三	八	ハ	△	六	三	八	ハ
八	四	五	九	十	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
九	>	>	>	>	ハ	△	五	ハ	△	九	>	>	>
二	九	三	八	二	十	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
○	六	五	○	八	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
八	四	五	九	七	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
五	△	五	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二	三	五	ハ	△	二	八	ハ	△	三	八	ハ	△	三
六	五	八	ハ	△	六	三	八	ハ	△	六	三	八	ハ
八	四	五	九	十	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
mf九	mf五	mf六	mf七	mf八	mf九	mf十	mfハ	mf△	mf五	mf六	mf七	mf八	mf九

管絃丈清会歌 (1)

管絃丈清会歌

石橋 令邑 作詞  
加羅古呂庵 一泉 作曲





